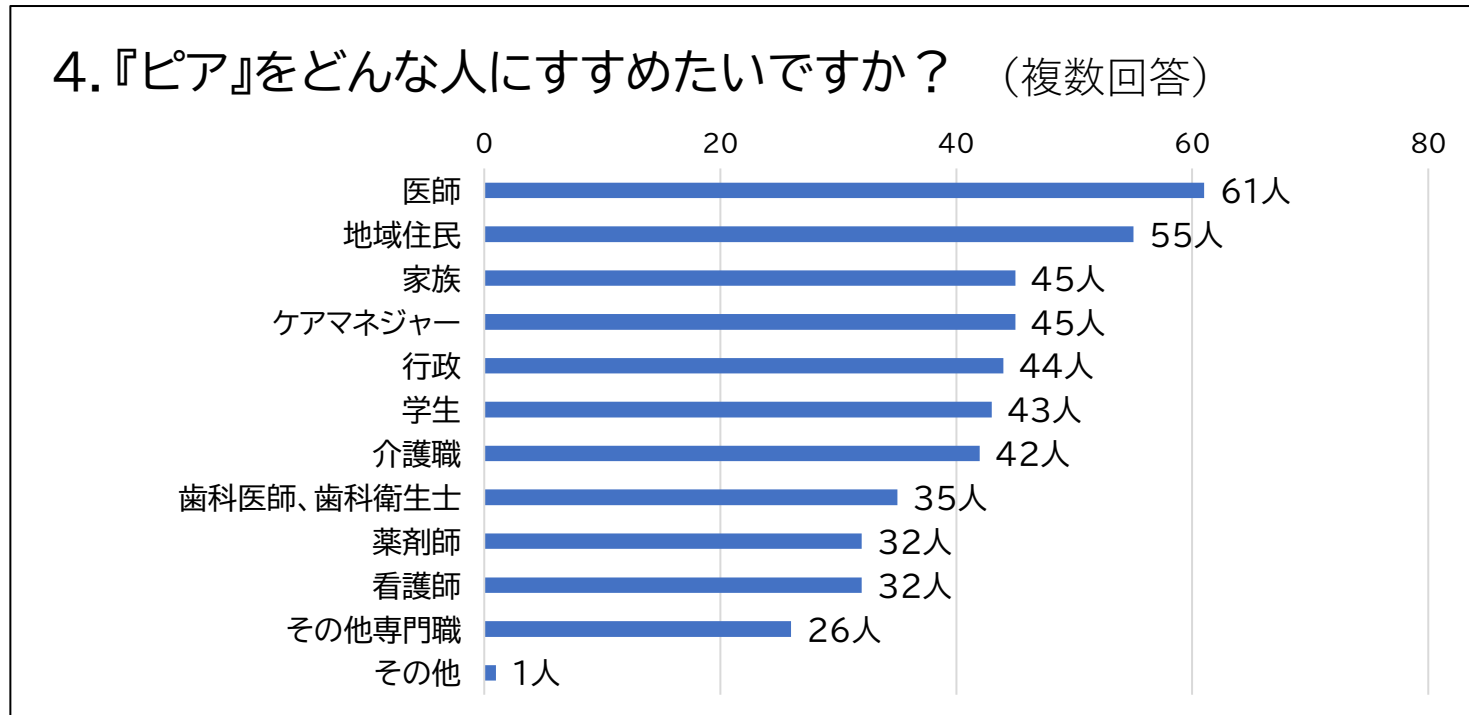
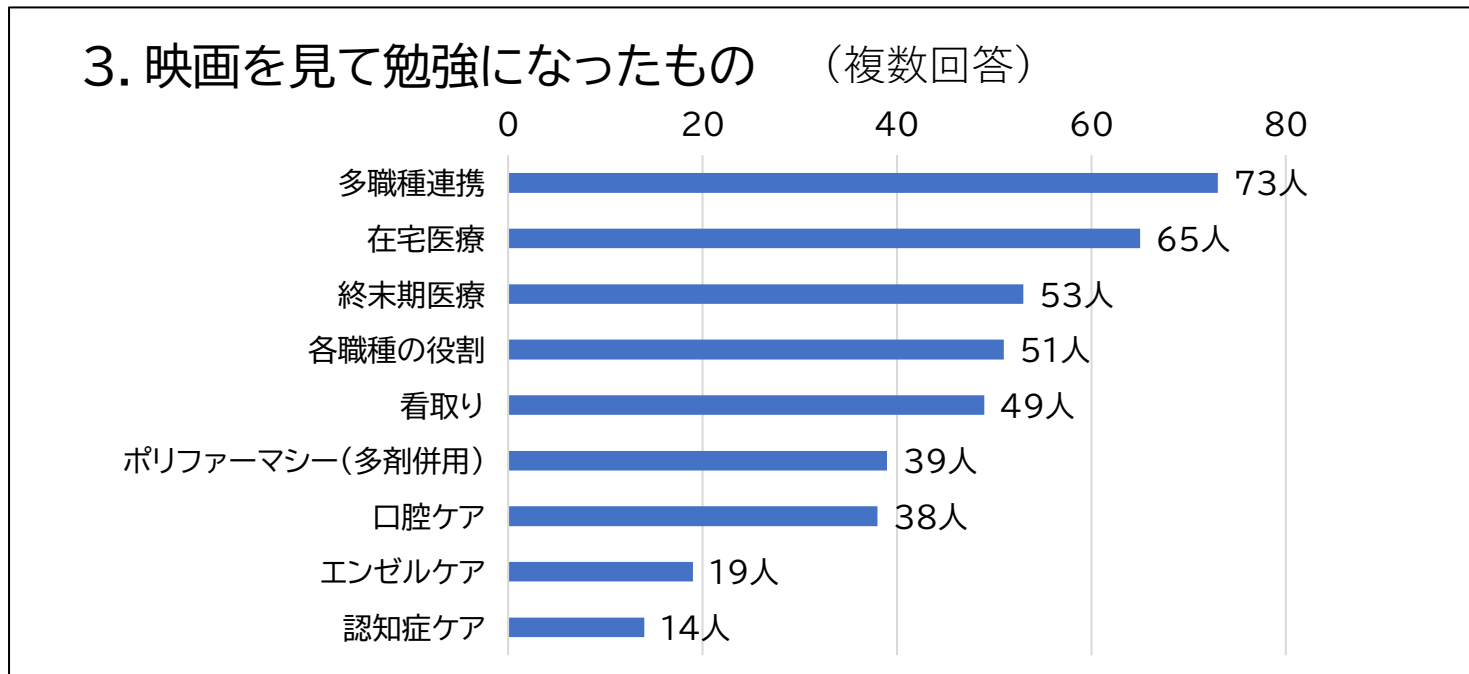
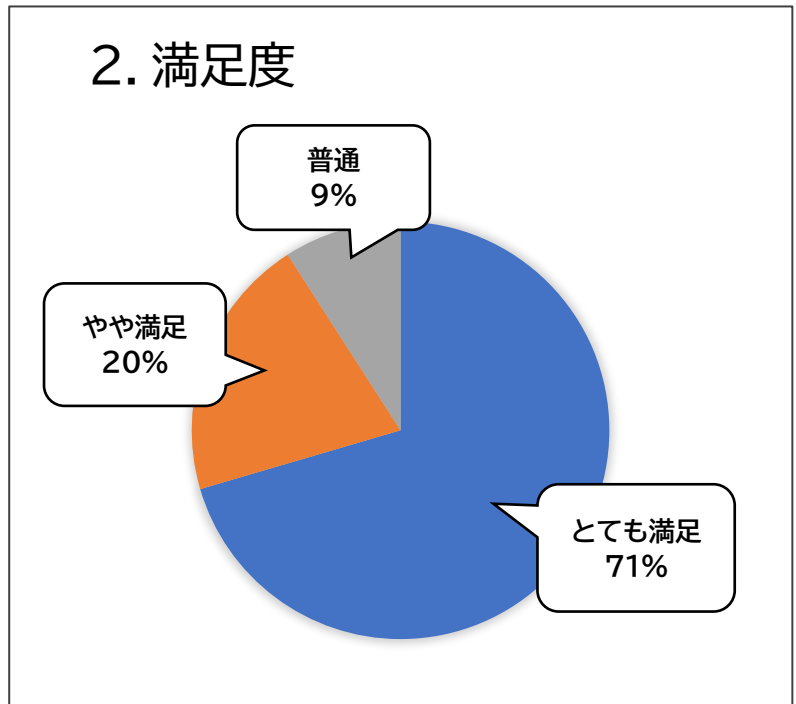
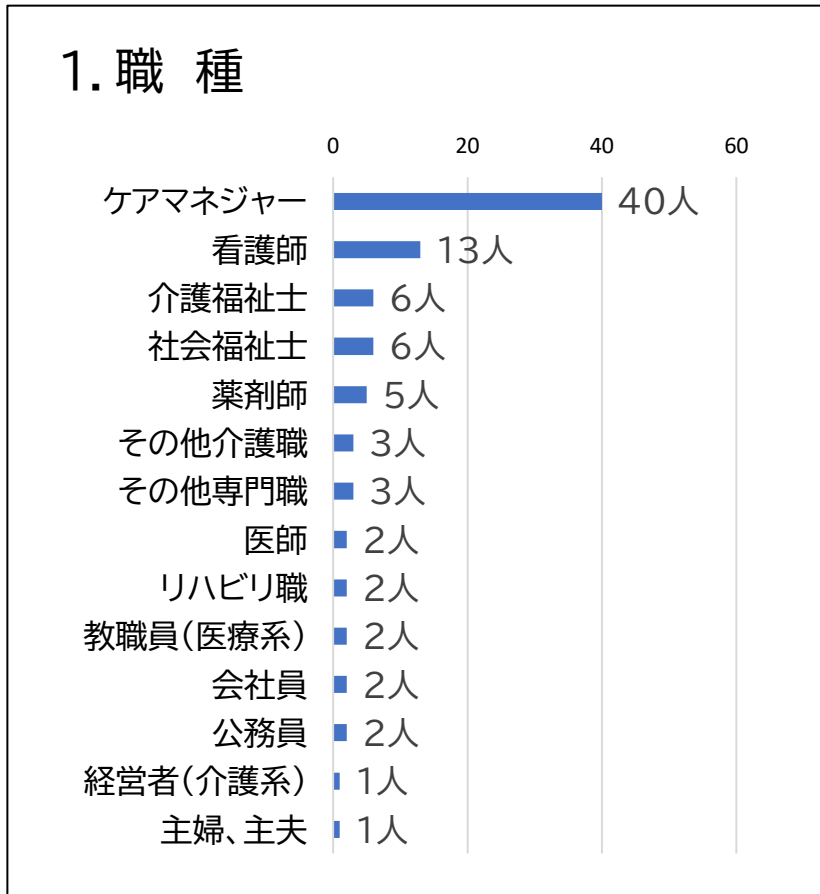


第15回 多職種連携 医療・福祉セミナー

『ピア～まちをつなぐもの～』オンライン上映会(令和3年2月19日～25日上映)

アンケート回答者:88名



5. 映画の感想(自由記載より一部抜粋)

<p>・大学の医師が在宅医療で徐々に本人や家族に向き合って、最後にはしっかり在宅チームの一員(仲間)になっていく姿に感動。とても良い内容でした。</p>
<p>・病院医師と在宅医療を行っている医師の姿勢や捉え方の違いが分かりやすく面白かった。</p>
<p>・在宅医療の大切さ・大変さ、多職種連携の大事さについて改めて学ばせていただきました。また、在宅での看取りについても考えさせられた内容でした。</p>
<p>・「家に帰ってこのように過ごしたい」と思って病院から退院したとしても、その時点では、実は病気を受け止めきれないまま退院していく患者家族も多いのではととさせられ、本当に不安の中で退院されるんだなと思い知らされました。病気そのものや介護だけでなく、家に戻った患者家族が日常生活を過ごす中で少しずつ病気を受け入れていく過程を、在宅チームの皆さんが支えているんだなと思いました。</p>
<p>・在宅医療に携わる者に上下はない。道を病院の廊下と考えれば、病院も在宅も大差が無い。積極的な医療が出来なかったとしても、やれることはある。多くの学びがありました。それぞれの専門性を生かしながら支える在宅ってやっぱりいいですね。対象者も家族も含めたピアという考え方を改めて日々の仕事にも生かしていきたいと思います。</p>
<p>・在宅医療に携わる多くの専門職の方々が前向きに看取りと向きあっていることがわかりました。また、今回の映画を観て終末期のあり方等を考える機会になったので、地域の在宅医療の充実のためにもより多くの人達に観ていただきたい映画だと思いました。</p>
<p>・最期をどう過ごすかではなく、どう生きるか。考えさせられました。</p>
<p>・終末期の方や家族が死にきちんと向き合い、大切な時間を過ごせるようにケアの一員として関って行きたいと思います。</p>
<p>・在宅医療や支援方法について、チームの在り方を考える良い機会となりました。</p>
<p>・福祉の道に進もうと決めた時の気持ちを思い出しました。在宅で最期を迎えると決めた本人や家族の支援の原点を再確認させられました。</p>
<p>この映画くらい医師にはっきりモノ申せたら気持ちよくだらうと思います</p>
<p>ここまで素晴らしいチームはないのかもしれないけれど、皆さん演技が上手でありあまりわざとらしく感じられなかったのがとても良かったです。</p>

6. 上映主催者へのメッセージ・要望(自由記載より一部抜粋)

<p>・自宅で視聴できるということで、とても気軽に参加させていただけました。その上、学ばせていただくことが沢山あり、勉強になりました。貴重な機会をありがとうございました。</p>
<p>・webでの開催は、自宅で自分の希望の時間に受けることが出来るのでありがたかったです。</p>
<p>・多くの人達に多職種連携の大切さを伝えるのに有効だと思います。</p>
<p>・みんなで鑑賞後にディスカッション出来たら最高でしたね。これからも、このような機会をよろしく願いいたします。</p>
<p>・ぜひ医者の方々に見て頂く機会を設けて欲しいと思います。</p>
<p>・とてもいい映画でした。最期まで、みんなで生活を支える、願いを叶えることができたなら本人も周りも幸せだと思います。</p>
<p>・映画鑑賞は研修と違って、日ごろの疲れが癒されました。</p>
<p>・シリーズ全ての作品の上映をお願いします。</p>
<p>・在宅ケアは、当事者や家族や関わる方々以外では、なかなかスポットライトが当たらない感じがするので、このように、映画で誰でも気軽に知ることができるのはとても良いと思う。</p>
<p>・生きるためのお手伝い。初心にかえれました。明日からまた頑張れそうな気がしました。</p>